

(様式1)

平成28年度 学校評価報告書 (学校評価結果のとりまとめ)

神戸市立八多中学校
校長：井上 宏規

項	重点目標(取組)	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価でいただいた意見等
一人一人の自立に向けた	一人ひとりの個性を伸長する学びの支援 一人ひとりに応じた指導の充実を図る	・全国学力・学習状況調査や神戸市学力定着度調査の結果を分析し、個々の指導に生かした。また、同室複数教員で指導する場面を増やした。	A	・テスト結果や普段の授業中の活動について分析し、個々の生徒理解に努める。そして、それを様々な場面における指導の中で生かしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは、下校時に通学路で出会った際にも、よくあいさつをしてくれる。 ・個々の生徒の悩みや困り感について教員がしっかりと受け止め、保護者と協力しながら解決していけるよう取り組んでもらいたい。
	・確かな学力の育成 分かる授業を推進し、学力の向上を図る	・少人数であるメリットを生かし、一人一人の生徒と深くかかわりながら授業を展開した。また、放課後や長期休業中にも生徒個々の学力向上に取り組んだ。	B	・全体指導はもちろん、個別指導についてもさらに力を注いでいく。そして、生徒が主体となる授業が展開できるよう、その改善に積極的に取り組んでいく。	
	・豊かな人間性と社会性の育成 道徳教育・人権教育を推進し、心身の成長と学びを支援する	・命の学習や保育実習を実施し、豊かな人間性を育成した。また、生徒会活動や各行事において、生徒が自主的に運営・活動できるよう支援した。	A	・道徳教育や人権教育については、その推進により力を注いでいく。また、生徒の自主的な活動がより活性化していくよう、授業や行事を改善していく。	
実教職員を磨き、学校の魅力と	・指導方法の工夫・改善 校内研修を充実させ、積極的に授業を公開する	・幼小中合同での研修やOJTにより、学習指導及び生徒指導における、教員個々の指導力向上を図った。また、組織としての指導力向上も目指した。	B	・教科指導については、小中連携や他校との連携を図ることで、指導力向上に繋げていく。また、校内における教科の枠を越えた研修についても工夫していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全やマナーの指導に力を注いでほしい。 ・幼児・児童・生徒数が減少傾向にある現状から、今後、地域の保護者の方々に八多の良さを知ってもらい、子どもたちを八多に呼び込んでくれることがますます重要になってくる。
	・校内環境の整備 安全安心な学校づくりを進める	・安全点検を実施すると共に、防災マニュアルや防災教育のカリキュラムの見直しを行った。また、防犯教室を実施し、その際、防犯チェックシートを活用した。	A	・校内安全だけでなく、登下校時の安全についても継続して指導していく。	
	・情報発信の充実 学校だよりや学校HP等により、情報発信の充実を図る	・学校だよりやホームページで、タイムリーな情報発信に努めた。また、授業公開ウィークや授業公開デイズの際に、劇観賞等の行事を実施した。	A	・授業公開については、保護者、地域の方がより参加しやすいよう、時期や曜日の設定等を検討する。また、学年の様子や学習に関する情報を発信する手段、方法について検討する。	
特色ある神戸の教育を更に発展させる	・「言葉の力」の充実 本とのふれあいの充実を図る	・朝の読書の時間を実施すると共に、図書室の蔵書を充実させ、読書環境を整えた。昼休みの開館時には、多くの生徒が訪れた。	B	・朝の読書の時間に放送読書を実施したり、生徒会の委員会活動で読書週間を設定したりするなど、新たな取り組みを試みる。それらの活動を通じて、図書室の利用機会を増やし、読書活動を活性化させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸っ子応援団事業の委託料が減額されたが、今後もかやぶき民家の絵画コンクール等については、継続して取り組んでほしい。
	・労働観と自立意識の育成 キャリア教育を推進する	・トライやる・ウィークに向けて、労働について考え、学んだ。また、かやぶき民家のある風景絵画コンクールへの出品や黒豆栽培等を通じて、自らが地域活動に参加する意識を高めた。	A	・トライやる・ウィーク関連の取り組みだけでなく、自らのライフプランや地域の未来について考え、行動する機会を継続して設定していく。	
の市民が自ら学び支える	・家庭地域との連携 地域行事に積極的に関わる	・地域の草刈りや茅刈りに、生徒・保護者共に積極的に参加した。また、防災訓練や八多音頭を踊る会には消防団等、地域の方々も多数参加した。	A	・今後も家庭や地域の協力が得られるよう、良い関係を維持・発展させていくことに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・保護者・地域が協力して、様々な工夫をしながら、今後も幼小中11年間教育をさらに充実したものにしてほしい。
	・保護者との連携 学習習慣の向上を図る	・各教科の指導だけでなく、学校や学年として家庭学習週間を設定したり、生活ノートを活用したりすることで家庭学習の定着を図った。	B	・家庭学習週間について保護者にしっかりと周知し、家庭が学校と連携して生徒を支援できるよう、体制整備を進めていく。	

